

令和2年度事業報告書
(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

1. バドミントンの普及及び指導

- (1) ジュニアに対する普及・指導活動の充実と社会人愛好者の組織づくりへの助成活動を進め、会員の拡大を図ったが、新型コロナウイルス感染症の影響による国内外の各大会中止により会員登録数が減少傾向となったが、各加盟団体の推進努力により 令和2年度は、**235,524名**の会員数を得た。会員登録35万人の目標に更なる助成活動を推進する。
- (2) 第29回全国小学生バドミントン選手権大会
令和3年1月7日から1月11日までの5日間、岐阜県岐阜市で開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。
- (3) 第21回ダイハツ全国小学生ABCバドミントン大会
8月14日から8月16日までの3日間、熊本県八代市で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。
- (4) 第36回若葉カップ全国小学生バドミントン大会
7月18日から7月21日までの4日間、京都府長岡京市で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。
- (5) 第50回全国中学校バドミントン大会
8月20日から8月23日までの4日間愛知県春日井市で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。
- (6) 第21回全日本中学生バドミントン選手権大会
令和3年3月24日から3月28日までの5日間、秋田県由利本荘総合防災公園ナイスアリーナで、役員148名の指導により、都道府県対抗男女混合団体47チーム、実人員499名の参加で開催。福島県が優勝し、中学生の健全育成に寄与することができた。
- (7) 第49回全国高等学校選抜バドミントン大会
平成33年3月25日から3月28日までの5日間、福島県宝来屋郡山総合体育館他2会場で、役員延 1200名の指導により、学校対抗男子33校、女子34校、実人員500名の参加で開催。優勝者は学校対抗男子 埼玉栄高校(埼玉県)、同女子 柳井商工高校(山口県)、男子単 森口航士朗(埼玉栄高校・埼玉県)、同複 大田隼也・佐々木大樹組(高岡第一高校・富山県)、女子単 水津愛美(柳井商工高校・山口県)、同複 大澤陽奈・石川心菜組(青森山田高校・青森県)で、それぞれ高校生の交流と技術の習得に大きな成果を収めた。
- (8) 第19回日本バドミントンジュニアグランプリ2020
12月11日から12月13日までの3日間、栃木県宇都宮で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(9)第38回全日本レディースバドミントン選手権大会

8月20日から8月23日までの4日間、群馬県前橋市で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(10)第15回全日本レディース(個人戦)バドミントン競技大会

12月11日から12月13日までの3日間、和歌山県和歌山市で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(11)用器具検査並びに認定

10月3日、2月6日に検定審査会を開催し、厳正なる検査の結果、第1種水鳥シャトル25種(16社)、第2種水鳥シャトル10種(9社)、ラインテープ3種(4社)、ラケット230種(17社)、検定工場20社、ネット20種(6社)、ストリングス54種(9社)、シューズ94種(10社)、ウェア915種(18社)、サービス高測定器3種(1社)を認定し、愛好者の使用の便を図った。

(12)競技規則書及びルール教本発行

各都道府県協会並びに8連盟で開催する審判講習会・検定会等でルールの周知徹底を図るため競技規則(諸規程集)2020-2021並びにルール教本(2020年版3級・準3級公認審判員資格検定ルール教本「緑本」)を発行し、常に新しい競技規則等の正確な資料を提出し、正しいルールに基づく円滑な試合運営と公認審判員有資格者の増員と資質の向上を図った。

(13)会員普及

コロナ禍の中、加盟団体と連携し、会員数の減少を最小限に抑えるように努めた。また、都道府県協会の会員登録業務の利便性の向上を図るべく、次世代会員登録システムにより、会員証の電子化を行い、現行のプラスチックカードの廃止に向けた準備を行った。同時に、公認審判員資格や公認スポーツ指導者資格についても一元的に管理を行うように改修したことから、公認審判員手帳についても電子化を行い、これまでの紙の手帳は廃止した。

(14)指導教本発行

コーチ3、コーチ4の養成講習会用公式テキストを編集、作成する予定だったが、新型コロナ感染症予防対策の影響により中止した。

(15)広報活動

HPを活用しての迅速かつ正確な情報公開と広報活動及びマスメディアに対して適時な情報、資料等を積極的に提供した。昨年は新型コロナウイルス感染症対策により各種大会が中止となりました。昨年12月開催の全日本総合バドミントン選手権(町田市立総合体育館・無観客試合)において、バドミントン競技の普及・発展及び愛好者に対し、バードスコアー、ユーチューブを活用した全試合配信を行うことにより会員拡大を図った。

(16)連盟に対する助成

学生連盟、高体連、中体連、小学生連盟、教職員連盟、レディース連盟、実業団連盟、社会人クラブ連盟の8連盟に対し、助成し、同連盟のより活発な活動を図るべく助成した。

(17)小・中・高一貫指導

「世界で戦える競技者」育成のため、各都道府県協会に小・中・高の一貫指導体制の構築を推進し、ジュニアの育成・強化を図った。

(18)バドミントン・アーカイブの収集・整理・公開

本会の歴史やバドミントン競技の歴史を残すことにより、本会の存在意義、バドミントンの魅力を多くの人々と共有し、バドミントンの発展に寄与するため、加盟団体等から寄贈を受けた周年記念誌等を電磁的に記録し、公開を開始した。また、1種大会の大会プログラム及び結果報告についても電磁的に記録し公開を行った。

(19)バドミントン・レガシーの創出と継承

バドミントン未来創造アカデミーの開講を予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策の影響により中止とした。

(20)東京 2020 応援プログラムの実施

2020年東京オリンピックの機運醸成と、大会後のレガシー創出に向けて大会組織委員会が行なっている「東京 2020 参画プログラム」のバドミントン版プログラムを、都道府県協会が開催する地域会場において、あらかじめ設定したプログラム(シャトルアート、ラリーラリー)あるいは地域ごとの独自プログラムを新型コロナウイルス感染症対策に伴う活動ガイドラインを遵守しながら実施し、日本全国のバドミントン関係者が繋がり、オリンピックに向けてのムーブメントを形成した。また、新型コロナウイルス感染症拡大の中、本会主催大会、各都道府県大会も中止されている中、それぞれの地域での交流試合、練習試合、合同練習会等を開催した場合、「東京 2020 応援プログラム」と同様の扱いとした。このことを通じて都道府県協会事務局の安定運営に向けた支援を行った。

(21)バドミントンフェスタ2020

開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(22)バドミントンファンクラブ

日本代表選手のファンクラブ会員を募集し、日本バドミントン界の普及・発展及びバドミントンファン拡大を図るべく取組を行った。

(23)第3回NBAフォーラム

開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(24)75周年記念事業

記念史を作成する予定であったが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により東京2020が延期となり、また、ビデオ収録も予定どおり実施出来なかったことから、作成目標を令和4年3月末まで延長することとした。

2. バドミントンに関する審判員及び指導員の養成及び資格の認定

(1)公認レフェリー資格者の本会第1種大会への派遣と資質向上

公認A級・B級レフェリー有資格者を2020年度実施された第1種大会(3大会)にレフェリー及びディピュティレフェリーとして派遣し、大会運営全般の統一性と公正化を図った。平成26年度に創設された国内レフェリ

ーインストラクター制度を活用し、公認レフェリー資格者の資質の向上のために、レフェリーインストラクターを全日本総合選手権大会等の4大会に派遣する予定をしていたが新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(2) 公認 B 級レフェリー資格検定会

公認B級レフェリーの育成と定数(全都道府県各1名、9地区各1名、8連盟各1名)の維持を図るために、公認B級レフェリー資格検定会を実施する予定をしていたが新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(3) 公認レフェリー研修会 ※

全国の本会公認レフェリーを参集して公認レフェリー研修会開催し、レフェリー間における競技規則等の諸規程に関する解釈や大会運営等に関する諸問題に対して共通理解や統一見解をはかり、大会運営の公正さの維持を図るために、開催を予定していたが新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(4) 資格審査認定委員資格更新講習会並びに資格審査認定委員検定会

コロナ禍においても感染拡大防止対策を十分に行い、資格審査認定委員講習会・検定会を開催した。本会公認審判員資格審査認定委員に、新しい競技規則を周知し、且つ正しい競技規則を再伝達することは、更なるバドミントン技術の資質向上に役立ち、また、全国の数々の大会において審判業務に携わる審判員の育成とその審判能力の向上に寄与した。

(5) 公認審判員資格検定会

正しい競技規則の習得と審判技術の向上による円滑な大会運営を図るため公認審判員資格検定会を開催し、本会公認審判員の育成を図った。1級審判員検定会は本会が主催し、2級、3級、準3級審判員資格検定会は、地区及び都道府県、8連盟が主催し開催された。検定会においては、本会公認審判員資格審査認定委員が担当した。公認審判員資格登録規程による学科試験、実技試験を実施し、合格者を各級公認審判員に認定し、各地で実施される大会において正義と公正に基づく円滑な競技会運営に寄与した。

(6) 公認審判員資格認定登録

公認審判員資格登録規程に定める審判員資格検定に合格した者は、1級5名、2級25名、3級961名、準3級3,252名、準3級から3級への移行者は899名で、それぞれが資格登録も完了した。また同規程により、1級134名、2級381名、3級9,247名の有資格者が資格更新登録をし、総数は、1級1,134名、2級1,374名、3級39,690名、準3級22,658名となった。

(7) 国際審判員・国際線審の研修及び活動

国際審判員を国内開催の国際大会3大会に派遣する予定であったが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。さらに国際審判員資格既得者の研修・活動として国際審判員相互派遣交流大会である韓国オープン等に派遣する予定であったが、同様に大会が中止となった。BWF、Badminton Asiaの指名により国際レフェリー、国際審判員、国際線審を国際大会へ派遣する予定であったが、同様に大会が開催されなかった。これらの派遣事業は国際交流に大いに貢献できるものなので次年度はできる限り派遣したい。

(8) 国際審判員、国際線審の派遣、受入および国際審判員相互派遣事業(イクスチェンジプログラム)の推進、国際審

判員の国内開催国際大会への派遣

新型コロナウイルス感染症対策の影響による国内外の大会の中止に伴い派遣を中止とした。

(9) 公認スポーツ指導者養成講習会

公認コーチ3養成講習会の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により、中止とした。また、公認コーチ3、4名(過年度分)と公認コーチ4、4名(過年度分)が専門科目検定試験に合格したことを公益財団法人日本スポーツ協会へ報告した。各都道府県バドミントン協会が各々の体育(スポーツ)協会と共催で実施する公認スポーツ指導者養成講習会は、公認コーチ2は新型コロナウイルス感染症予防対策のため中止とし、公認コーチ1は福島県、埼玉県、長野県、愛知県、滋賀県、奈良県、大分県の7県で開催された。

(10) 公認スポーツ指導者講師競技別全国研修会

開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(11) 公認スポーツ指導者の資格更新

指導者資格認定制度に登録された各スポーツ指導者の登録更新のために、4年間に1回受講が義務付けられているコーチ3、コーチ4更新研修会は、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、第1回目、第2回目とも課題レポートによる代替措置を行い、合計90名がレポートを提出した。また、32都道府県協会(延39回)で、公認コーチ1・コーチ2資格更新ための更新研修会が実施され指導者としての資質の向上を図った。(内21回はレポートによる代替措置)なお、公認コーチ3、コーチ4の更新研修会受講者および各都道府県バドミントン協会から報告のあった公認コーチ1、コーチ2の更新研修会受講者を、公益財団法人日本スポーツ協会へ報告した。

(12) 全国巡回バドミントン講習会

開催を予定していた山形県、京都府、鳥取県、山口県、高知県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県の8会場は新型コロナウイルス感染症予防対策の影響ですべて中止とした。

3. 公益財団法人日本スポーツ協会、世界バドミントン連盟(BWF)及びBadminton Asia への加盟と国際貢献

(1) 公益財団法人日本スポーツ協会等への代表者派遣

公益財団法人日本スポーツ協会、JOCへ代表者を派遣するとともにその事業に対し、協調、展開し、バドミントン競技の発展を図った。

(2) 世界バドミントン連盟(BWF)総会等への代表者の派遣

デンマークで開催予定であったBWF.AGM(総会)が新型コロナ禍感染拡大で2度中止となり、止む無くバーチャル会議での開催となった。7月18日日本協会事務所内において日本時間8時より10時20分まで、銭谷欽治(専務理事)・高橋英夫(国際部長)・三宅宅(事務局員)の三名が参加し、国際スポーツ振興及び世界バドミントン競技の発展を図った。

(3) Badminton Asia 総会等への代表者派遣

上記と同様にBadminton Asiaの総会が7月16日、日本時間4時より6時20分まで、銭谷欽治専務理事・三宅事務局員は日本協会事務所にて、高橋英夫国際部長は愛国学園会議室にて参加した。アジアスポーツ振興及びアジアバドミントン競技の発展を図った。

(4) 国際貢献

バドミントン発展途上国に物品支援(中古ラケット、シャトル、ウェア、シューズ等)を行い、本会が国際貢献を通じて世界のバドミントン界の普及発展に寄与した。なお、バドミントン発展途上国への競技力向上支援事業(コーチ派遣・海外指導合宿実施・国内受入等)については、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により収束後まで延期することとした。

4. バドミントンに関する国内競技会の開催

(1) 第13回全国社会人クラブバドミントン選手権大会(個人戦)

6月20日から6月22日までの3日間、愛知県豊田市開催を予定していたが新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(2) 第70回全日本実業団バドミントン選手権大会

6月24日から6月28日までの5日間、大阪府大阪市で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(3) 第71回全国高等学校バドミントン選手権大会

8月7日から8月12日までの6日間、愛媛県松山市で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(4) 第59回全日本教職員バドミントン選手権大会

8月13日から8月17日までの5日間、高知県高知市、南国市で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(5) 第22回全国高等学校定時制通信制バドミントン大会

8月17日から8月20日までの4日間、神奈川県小田原市で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(6) 第8回全日本学生バドミントンミックスダブルス選手権大会

8月18日と8月19日までの両日、福島県いわき市で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(7) 第44回全日本高等専門学校バドミントン選手権大会

9月5日と9月6日両日、京都府舞鶴市で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(8) 第63回全日本社会人バドミントン選手権大会

9月5日から9月9日までの5日間、宮城県仙台市で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(9) 日本マスターズ2020愛媛大会バドミントン競技会

公益財団法人日本スポーツ協会等との共催事業で、9月19日から9月21日までの3日間、愛媛県砥部町で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(10)第39回全日本ジュニアバドミントン選手権大会

9月19日から9月22日までの4日間、愛知県豊田市で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(11)第75回国民体育大会バドミントン競技会

公益財団法人日本体育協会等との共催事業で、10月9日から10月12日までの4日間、鹿児島県指宿市で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(12)第71回全日本学生バドミントン選手権大会

10月16日から10月22日までの7日間、愛知県一宮市で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(13)バドミントンS/Jリーグ2020

10月31日から令和3年2月21日まで、全国各地15会場で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(14)バドミントンS/JリーグⅡ2020

11月12日から15日までの4日間、三重県伊勢市で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(15)第37回全日本シニアバドミントン選手権大会

11月20日から11月23日までの4日間、埼玉県久喜市他で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(16)第74回全日本総合バドミントン選手権大会

12月21日から12月27日までの7日間、町田市立総合体育館会場で男子単32名、同複32組、女子単32名、同複32組、混合複24組、実人員240名の参加で開催。優勝者は男子単 桃田賢斗(NTT 東日本 東京)、同複 遠藤大由・渡辺勇大組(日本ユニシス 東京)、女子単 奥原希望(太陽ホールディングス 東京)、同複 福島由紀・廣田彩花組(丸杉 Bluvic 岐阜)、混合複 渡辺勇大・東野有紗組(日本ユニシス・東京)、競技役員延800名。

(17)第20回 全国社会人クラブ対抗バドミントン選手権大会

令和3年2月20日から3月22日までの3日間、大阪府大阪市で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

5. バドミントンに関する国際競技会

(1)ヨネックス大阪インターナショナルチャレンジ2020

3月31日から4月5日までの6日間、大阪府守口市市民体育館で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(2)東京2020オリンピック・パラリンピック

新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により延期となった。

(3) ヨネックス秋田マスターズ2020バドミントン選手権大会

8月18日から8月23日までの6日間、秋田県秋田市(CNAアリーナ★あきた)で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(4) 日・韓・中ジュニア交流競技会

8月23日から8月29日までの7日間、秋田県で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(5) 日韓ナショナル交流競技会

8月31日から9月4日までの5日間、富山県高岡市で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(6) ダイハツ・ヨネックスジャパンオープン2020

新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(7) ヨネックス杯国際親善レディースバドミントン大会2020

10月21日から10月25日までの5日間、大阪府大阪市(エディオンアリーナ大阪)で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(8) 日韓高校生交流競技会

新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

6. バドミントンに関する国際大会への代表者の選考及び派遣

(1) トマス杯・ユーパー杯

デンマーク/オーフス市へ派遣を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により日程変更のため延期となった。

(2) 世界ジュニア選手権大会2020

ニュージーランド・オークランド市へ派遣を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(3) 韓日高校生交流競技会

新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(4) アジア混成団体選手権2021兼スディルマン杯アジア予選

新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止した。

7. バドミントンの競技力の向上

(1) スポーツ医科学研究

公益財団法人日本スポーツ協会、独立行政法人日本スポーツ振興センター及び選手強化本部の各部と連携し、バドミントン競技の特性を研究しながら、トレーニング技術や目標を達成するためのメカニズムを明確にしていくとともに、スポーツ医科学のサポートスタッフの養成を促進し、併せて資質とレベルの向上を図り、競技力向上と強化体制を図った。

(2) アンチ・ドーピング対策

公益財団法人日本アンチドーピング機構(JADA)との協力により、「日本ドーピング防止規程」によりドーピング検査を実施し、アンチドーピング対策を実施した。また、各種大会においてアンチドーピング啓発を行うとともに、ジュニア選手へのアンチドーピング・アウトリーチ活動を積極的に進めた。

(3) 選手強化

本年度は、2020年東京オリンピック・2024年パリオリンピック対策プロジェクトと位置づけ、ナショナルチーム A 代表・B 代表を男女別に日本代表選手として編成し、国内合宿、海外遠征等によりナショナルチームのより一層の選手強化を図った。また、ジュニア層の競技力向上を図るために、カテゴリーを U-19(高校生)・U-16(中学生)・U-13(小学生)に分けて引き続き、小中高一貫指導体制により強化を図った。次代のオリンピック、世界選手権大会等に備え、有望選手の発掘に努めるとともに、U-19(高校生)においては、ナショナル B 代表との合同強化合宿を実施するなど選手強化体制の充実を図った。